

大野悦子さんに東京ブランチ賞



2010年度の東京ブランチ賞は大野悦子さんにさしあげられます。

大野さんは1980年からスコティッシュ・カントリー・ダンシングを本格的にやってみようと決意しました。フォークダンスで女性同士が組むことにちょっと違和感を感じ、SCDのセット全体での踊りに魅力を感じたのです。1982年から千葉県においてスコティッシュ・カントリー・ダンシングの積極的な普及を推進しています。

大野さんは1989年に予備試験に合格し、1997年、ティーチャー資格を取得しました。クラブの会員にティーチャー資格取得を大いに奨励し、その結果が千葉県におけるSCD活動隆盛につながっています。

東京ブランチにおいては1998年度から2001年度にブランチ委員をつとめ、うち1998-1999年度はトレジャラとして活躍しました。

授賞式は6月の東京ブランチ年次総会で行なわれます■

ブランチクラス

ビギナーズ・クラス

1月24日(月) 1.30 - 4.00

以降第2・第4月曜日

千代田区総合体育館5F

講師 堀 澄子

¥500/クラス

担当 井口弓子 048-924-9447

インターミディエイト・クラス

2月7日(月) 1.30 - 4.00

講師 渡部多美子

千代田区総合体育館5F

3月7日 講師 大西弘美

¥500

担当 山田美代子 03-3696-9180

アドバンスト・クラス

2月5日(土) 6.20 - 8.40

講師 長峯真弓

昌平童夢館4F

3月5日 講師 境 雅子

¥500

担当 篠塚昌子 029-855-4728■

ブランチ主要行事予定

6月10日(金)～12日(日) レイクホテル西湖

Weekend & AGM

10月29日(土・午後) 場所確定中

秋のソーシャル・ダンシング

2012年1月 New Year Dance 2012

2012年6月1日～3日 レイクホテル西湖

Weekend & AGM

運営委員会報告

11月6日

1. 五十嵐成子さん祝賀会の申込者数は113名。手持ちプロ作成担当、受付用名簿作成担当などを決めた。
2. New Year Dance 2011 のチラシは11月配布のランチニュースに同封する。ボランティア・ミュージシャンは12名の応募があり、バンドリーダー3名から楽譜を入手し、全員に送る。手持ちプロ作成、装飾および会場設営、茶菓の手配など担当おならびに依頼先を決めた。
3. 2010年度ランチ賞推薦書は11月配布のランチニュースに同封し、候補者をつのる。
4. 本部年次総会は本日パースで開催中。ランチ代議員はクレメント篤子、五十嵐成子、荒井千文、村上美枝子さんの4名。
5. マガジン11号日本語版は12月配布のランチニュースに同封できるよう編集する。
6. ハワイランチのワークショップ・参加費用増加となるが予定どおり実施する。

12月4日

1. 五十嵐成子さん祝賀会は、全体としてよかった、楽しかったという参加者の声である。収支は約22千円プラスの見込み。
2. New Year Dance 2011 の楽譜は11月中旬に配布済み。
3. 千代田区団体登録は3年ごとに名簿更新が必要。従来どおり田村美恵子さんをお願いする。
4. 昌平童夢館の抽選会出席は田村美恵子さんをお願いしているが、出席が難しくなっている、ランチから派遣をとの話があり、当面の担当を決めた。本件ランチ会員の協力も得られるはずとして、新規会場開拓も含め、ランチニュースに書類を同封してボランティアをつのる。
5. 2013年試験の3ランチ合同試験委員会に東京ランチから試験委員2名を出す必要があり、候補者を決めた。
6. 2通の2010年度ランチ賞推薦書を受領し、いずれも大野悦子さんを推薦している。ランチおよびSCDにおける貢献大なので大野さんに受賞していただく。
7. ランチクラス講師選定は、頼まれればやるという人が多いと考え、過去1年ほど委員会で候補者を指名してきたが、講師OKなのに問合せがないとの声がある。よって2011年度は全ティーチャーに指導希望日を問合せ、1月に決定する。

8. 2012年のWeekendは今ごろから予約しないとよい日がとれない。6月1日～3日、レイクホテル西湖で予約することとした。また外国人講師は、節目の年でないこと・参加費用低減のため、招聘しないとした。

9. 埼玉ランチ10周年行事には西森チェアマンが参加する。

10. 2011年4月のアドバンスト・クラスは童夢館利用不可が予想されるため、大久保地域センター予約を青木幸子さんに依頼する。

11. 2011年10月29日(第5土曜)午後16時にソシヤル・ダンシングを行なう。

12. ランチレター86号の「リカップMCのススメ」について積極的に意見を出してもらうこととする■

ランチ運営委員

チェアマン	西森典子	043-485-2528
セクレタリ	鳥山豊喜	044-988-7773
	t-toriyama659@jcom.home.ne.jp	
トレジャラ	松木道子	042-475-9054
メンバーシップ・セクレタリおよび ニュース担当	疋田千鶴子	047-467-1922
委員	井口弓子	048-924-9447
	山田美代子	03-3696-9180
	篠塚昌子	029-855-4728
	金田治子	043-485-8951

クラスで踊ったダンス

ビギナーズ・クラス 篠塚昌子

11月8日

Up in the Air	Bk 20
Happy Returns	MMM
Lamb Skinnet	Bk 14

11月22日

Monymusk	Bk 12
Tokyo Twenty Five	Macpherson
The Scots Bonnet	Bk 10

12月13日

Lady Lucy Ramsay	MMM
Dumbarton Drums	Bk 5
Lamb Skinnet	Bk 14

12月27日

Welcome	Watson
Lamb Skinnnet	Bk 14
Happy Returns	MMM
The Scots Bonnet	Bk 10
Balmoral Strathspey	Bk 22
Catch the Wind	Bk 45
Tokyo Twenty Five	Macpherson

RSCDS マガジン 11 号

Tom Toriyama

Scottish Country Dancer 11 号の記事中、特に目を引いたものを述べる。なおどういふわけか英文原本未着の会員がおられ、追加送付を本部に手配中で、たいへん申しわけなく思っている。

インターミディエイト・クラス

11月1日 鈴木百代

Red House	Bk 7
Scott Meikle	Bk 46
Best Set in the Hall	Bk 46
La Ronda	Drewry

12月6日 渋谷明美

The Gardeners' Fantasia	Bk 46
The Chequered Court	Bk 42
Inverneill House	Bk 35

アドバンスト・クラス

11月6日 若松陽子

Lady Mary	
Cochran's Reel	Bk 26
Stuttgart Strathspey	Bk 33
Keep Those Feet Dancing	Morris
The Song of the Waves	Priddy
The Floosie in the Jacuzzi	Birmingham

12月4日 小山かおる/服部雅好

Crieff Fair	Bk 10
The Star	Bk 28
Ruby Red	Wallace
The Kandahar Reel	RSCDS 2010

訂正

前号のブランチレターNo.86

p.1 右下 New Year Dance 2010 を New Year Dance 2011 に

p.4 左下 9月4日アドバンスト・クラスのミュージシャン 市川洋子を小海弘子に

誤記をおわびします■

p.3 本部役員 11月のAGMでアレックス・グレイがチェアマンを退任し、後任はルース・ビーティ(グラスゴー)であるが、そのつぎはジョン・ウィルキンソン(エジンバラ)が選出された。

p.4 チェアマンから アレックスの退任挨拶を兼ねる記事である。注意を引くのは養護施設のジョン・ドルーリを見舞ったという文。ここ5年ほどジョン・ドルーリの新ダンスブック出版がなかったが、こういうわけかと納得した。

p.5 総務財政委員会 報告では75万ポンド(1億円)の資産ありとなっている。同委員会の努力やVAT支払準備金の凍結解除などによるものであるが、2年前の13万ポンドの赤字とは大変な違いで、50%の会費値上げは何だったのかと思う。

p.11 SCDはあなたを助ける 人生後期にあって、SCDは効果的な余暇活動、はそのとおりと思う。

p.12 資料庫から 50年以上前とはいえ、原本 p.13 写真のビル・クレメント氏、レスリー・マーティンの美男美女ぶりには驚かされる。

p.14 左下写真 第4週デモチームの有田典和さん(一番背が高い)が写っている。

p.15-19 アレスター・エトキンヘッドとのインタビュー p.18のつまらない受験者は不合格にすべきだが、試験員にはそうする勇気がない、にはやはりねという思いがする。

p.19-21 プログラム立案者へのガイドライン 東京ブランチレターNo.81の記事に類似しているが、Eフラット(変ホ長調、bが3つ)ばかりのストラスペイ(例 *Gang the Same Gate*)にしないこと、にはそこまで調べないとだめ?の思いがする。しかし、日本のすべてのグループリーダーはこの記事をよく理解してほしいと思う。

p.31-32 レコーディング批評 Book 46 CDの演奏、ストラスペイはもう少しスローでソフトに、は同感である。艶っぽさに欠ける演奏と思う。

p.33-34 私の意見 ロンドン地区ではダンス会の開始前に全ダンスのパートナーを予約する悪習がはびこっている。日本においてはこのような慣習が根付かないよう心から願う■

RSCDS AGM 報告

(2010年11月6日パースにて)

クレメント篤子

2:30 pm - バグパイパーの先導にて、プラットホーム・パーティ入場。全員起立する。

議長のドクター・アレスター・マクファジョンにより、歓迎の言葉があり、パトロンの女王陛下からのメッセージが読み上げられた。

ひととき顕著な功績のあったソサエティ会員に贈られる「スクロール・オブ・オナー」の授与。先ず年総会に出席して授賞ができず、各地元での受賞となるケープタウンランチのローズ&ダンカン・マクミラン、ウイニペックランチのクリスティン・ウォレス、バンクーバーランチのマーガレット・マクラウド、シアトルランチのアイリーン・パタソンの4名の功績が、紹介された。次に、ヨーク&北ハンバーサイドランチのマルコム・ブラウン、ニューキャスルランチのジョン・カア、東京ランチの五十嵐成子、三氏が授賞された。

昨年の議事録承認、プレジデント・副プレジデントの任命確認が行なわれた。

この一年間の各委員会の報告・会計報告がそれぞれ紹介され、承認された。

監査会社の任命が確認さ、新チアマンにルース・ビーターティが任命確認された。

以下、選挙結果

チアマン・エレクト・・・Mr ジョン・ウィルキンソン

トレジャラー・・・Mr ロス・ロハートソン

メンバーシップ・サービス委員長・・・Mr ビル・オーステイン

マネージメント・ボード委員・・・3年任期: マルコム・ブラウン、キース・エヴァンズ、ジム・ヒーリー、ジミー・ヒル。

2年任期: ジャック・プレスリー、フィリップ・ホワイトリー (all Mr)

教育・トレーニング委員会・・・Mrs パット・ハウトン、Mr ジム・ストット

会員サービス委員会・・・3年任期: Mr ルーク・ブレディ、ロジャー・モートン

2011年7月1日からの年会費・・・£15が承認された。

動議 (217人の delegate 出席、325票。承認には2/3の216票が必要)

13.1.1 Executive Officer(管理責任者)の就任により、マネージメントボードは、小委員会を設置し、財務一般運営委員会、RSCDS トレジャラー(会計士)、セクレタリー/イグザクティブ・オフィサーの業務重複を避け、効果的な運営が出来るように検討をした。その結果、2010年11月より、財務一般運営委員会が行っていた業務を、管理責任者と会計士に移行する。そのための必要な規約変更・・・**賛成 313 反対 5 保留 7**

13.1.2 謝礼支払い・・・会計士の資格を持つ会員に、トレジャラーを任命する。しかし必ずしもこの役職を希望する会員が見つかるとは限らない。その場合に謝礼(£1,000程度)を支払うという条件があれば、会員の中でこの職に就いてくれるか、本職に頼む必要があるかもしれないための、予備的項目・・・ということで、他の委員は対象にならない。RSCDSのために例えば、サマースクールのダイレクターは、4週間自分の時間を貢献する、音楽を本職とするミュージシャンの音楽アレンジなどの貢献など、他の役職に対し、不公平だ・・・などの声上がり 2/3の承認が得られなかった (賛成 177 反対 129 保留 17)。

13.1.3 Minor amendments 本部職員の病気による自動的退職を避けるための項目追加・・・**賛成 319 反対 1 保留 2**

13.2 AGM delegate の2/3以上の賛成があれば緊急

動議を討議する事ができる・・・話し合いを一年間待つ事を避ける。賛成 234 反対 74 保留 16

13.3 年会費は項目は動議とする・・・現在は議事の一項目で、それに対し賛成か反対のみで、変更案が出せない。賛成 248 反対 65 保留 9

13.4 Teachers' Course Costs --- 動議取り下げにより無効

AGM Weekend の運営に当たり、関係者諸氏に感謝の言葉が述べられ、来年の AGM の開催地と日にちが確認され、総会は 17:17 に終了した■

功労賞受賞の旅

五十嵐成子

RSCDS 功労賞 (The Scroll of Honour) を、11月6日(土) パースの本部年次総会 (AGM) で受賞した。式次第もわからない私であったが、会場でクレメント篤子さんの笑顔を見てほっとし、篤子さんの案内で滞りなく受賞でき、その心遣いが本当にうれしく、感謝している。

パースには前日の11月5日(金)、同行の荒井千文さん・村上美枝子さんとともにパリ、エジンバラ経由で到着した。エジンバラからパースに向かうバスは、カナダのように黄葉でうまった高速道路をとおり、車高の高いバスからあきることなくスコットランドの晩秋光景を楽しんだ。パースの B & B の主人はロシアのメドベージェフ大統領を思わせる風貌で、3泊目にはよい部屋に変えてくれたが、浴室で洗髪したら途中から冷水に変わり、頭を浴槽に突っ込んでリンスを落とすという具合だった。

天候はスコットランド特有のもので、3日間の滞在中に初霜が降り、雨、風、あられに見舞われた。7.45 am に霧の中から朝日が昇り、とても印象的であった。花火が上がった夜もあったが、これは1週間遅れのハローウィンであったようだ。

授賞式に先立って本部 VIP と受賞者との昼食会があり、受賞者は同伴者1名と会食できる。篤子さんは他の予定ありとのことなので、私は1992年試験コース時のクラスメート、アン・テイラーとともに出席したが、どうも腰の落ち着かない堅



アレスター・マクファジェンから功労賞を受賞

苦しい雰囲気のある食事会であった。AGM 開会宣言のあと、会長アレスター・マクファジェンから功労賞を手渡された。この日の受賞者出席は私と、皆さんもよく知っているマルカム・ブラウンを含め3名で、残りの4人にはケープタウン、シアトルなど地元での受賞であった。

ベルズ・スポーツセンターにおけるダンス会は金・土の2回あり、両方とも700名の参加であった。第1回のダンス会はボールで、正装のたてまえであるが、そうでない人も大勢参加していた。リカップはなく、セットがそろったらコードが鳴る。バンドはニール・コーブランドによる淡々とした演奏で、ダンサーもそのように踊っていた。第2回目、AGM 後のダンス会はリカップつきの MC、バンドはコリン・デュワーであった。このバンドは「のせる」演奏で、ダンサーもりのりに、すごく楽しかった。バンドによる雰囲気の違いを感じ、よい経験になった。また改めて思うことは、両ダンス会ともダンサー同士のソーシャル精神にあふれていた。スコティッシュ・カンントリー・ダンシングとはこんなにも楽しいのか、日本でもこのようでありたいと感じた。

ダンス会でヘレン・フレーム、カオル・ボーデ、イアン・ホールなど懐かしい顔に会えたが、マービン・ショートと Miss Allie Anderson を踊ったときには苦勞した。Bars 5-12 の lead down & up でマービンは例の長い脚でどンドン踊る。こちらの脚はそれほどでもないというわけである。

帰りはエジンバラ空港近くに泊まったが、市内でショッピングのあと、雨の中で48番のバスを待ち続け、これがスコットランド最後の思い出となったパース旅行であった■



11月23日、五十嵐成子さん RSCDS 功労賞受賞祝賀ダンス会のスナップ



Crieff Fair と Peggy's Love

—本部ウェブサイトの「Technique Panel」から—

Q: *Crieff Fair* (Book 10) の bars 15-16 において、初期の本ではパデバスクで回れとなっているが、最新の合本を解釈すると女性はスキップ・チェンジで、つないでいる手の下を左に回って 1st corners に向くこと、を意味するのだろうか。

A: スキップ・チェンジまたはパデバスクのいずれでもよい。しかしながら、今日指導するときにはスキップ・チェンジのほうが適している。初期の本では「手の下を左に回って」であるが、Book 7-12 合本で意味するところは、女性はスキップ・チェンジで、つないでいる手の下を時計回りに回って 1st corners に向くこと、である。

Q: *Peggy's Love* (Book 8) の bars 11-12 において、1970 年のフル試験では手を取らずにダンスアップし、1st corners に向いた。このときの試験員の 1 人はミス・ミリガンで、このやり方で文句は言われなかった。最近の本では 1st カップルは lead up しろとなっており、これは右手同士を取りあえということなのか、それとも 1970 年の踊り方のバリエーションと考えるべきか。

A: Bars 9-12 はシビアなストレッチを必要とする。現在では、lead は右手同士を取りあえということになる。もうひとつの折衷的なやり方は dance である（つまり nearer hands を意味する）。パートナーを手助けすることになるので、手を取らないよりも取り合え、ということである ■

「リカップ MC のススメ」

についての感想

12月のブランチニュースでレターNo.86掲載の「リカップMCのススメ」記事への皆さまのお考えをお寄せくださいとのお願いに、何人かの方からSCDへの想いにあふれた文章が寄せられました。

それぞれのお気持ちを皆さまにも知っていただきたくて、投稿して下さった方のご了解を得まして、全文掲載させていただきます。経験・立

場とかもさまざまで、共感なさるか否か、受け取り方はさまざまと思いますが、気持ちよくみんなでダンスを楽しむためにパーティへ参加されている思いは同じはずです。そのためのいいヒントとしていただければと願っております。

●日本におけるパーティ考

2010年11月の東京ブランチレターNo. 86にリカップのススメという記事が載っていました。

ウォークスルーがあると盛りあがった雰囲気は下がる？

ウォークスルーがあるとダンシングの楽しさが味わえない？

この3~4年前からサマースクールでもウォークスルーがあるという話を聞きました。世界的にSCDSの高齢化が進んでいる昨今、スコティッシュダンスのお膝元のスコットランドでさえ、ウォークスルーを取り入れてきているのが現状なのでしょう。

日本でウォークスルーがパーティで行われるようになったのは何時頃からだったのでしょうか。只その時もちょっと難しいダンスや新曲などだったと記憶しています。それがSCDの裾野が広がったときすべてのダンス曲に対してウォークスルーをするようになったと記憶しています。

1, 2年でBOOKが出て、それを消化しないうちに又、新しいダンスが出てくる。

ソサエティ以外のダンスブックも皆さんが世界中から取り寄せるようになり、一段とダンス曲が増えました。新しいダンスもパーティに取り入れたいと思うのも当然だと思います。

パーティでウォークスルーを事前にやっても盛り上がった気分が下がったことは余りありません。ただ、下記のような出来事で今後パーティには余り参加したくないとは思いました。

- 1 だらだらしたダンスに関係ないMCのお喋り。
- 2 ウォークスルーを再度要求され、じゃあもう一回と繰り返されたとき。
- 3 壇上からの説教。
- 4 会場からダンサーを誹謗する野次。
- 5 訂正の多いMC一折角覚えてきたのに混乱してしまう。

6 ダンスの中のリカップ—折角の音楽が聞こえない。

ダンスは楽しむものです。その場をそこに居る人達が盛り上げていくものだと思います。

パーティは踊れる人たちだけのものでしょうか？ダンスは社交です。

と、私は教えてもらいました。踊れる人、余り経験がない人、皆さんが助け合ってダンスは楽しむものだと思います。そして、助けてもらった人が次は私がと思って沢山経験を積んでいけたら、きっともっと盛り上がるパーティになると思います。

今回のレターのご意見の中で一つ、二つとても気になるところがありますので、感じたことを書きたいと思います。

日頃「へタ！」とか「ダメ！」とか連発されている指導者はいったい何人いるのでしょうか。ほとんどの指導者の方々は、皆さんとても親切で、わかりやすく一人でも迷う方があれば何度でも丁寧に指導されていると思います。そして、どのような指導をすれば皆さんの上達を手助けできるのか、日夜試行錯誤されていると思います。

私がダンスを始めた30余り年前は皆、若く(当たり前ですが)、現在踊っている私達よりずっと踊りは綺麗で素晴らしいものでした。当時は女性が少なく男性はベテランの女性に踊ってもらうために、日夜努力して、勉強していました。皆さんノーコールやリカップでスイスイと踊っていました。当時を知らない方が想像で書かれ、皆さんが「ダンサーがSCDを知らなかった」と思われたら、その当時の方の名誉が傷つきますので、訂正しておきます。

そして、録音音楽でも音楽の認識は素晴らしく、よくイントロクイズをしていました。

再度書きますが、人間 歳を取れば覚えていたこともわすれてしまうことが多くなってきました。明日は我が身です。ウォークスルー思い出して、楽しく踊った方が会場はより盛り上がると思います。

ミュージシャンの方々も皆さんが安心して、にこやかに踊っている姿を見れば自然とその楽しさが伝わり、演奏も弾んでくることでしょう。音楽とダンスと会場一体になった時、SCDの素

晴らしさが体感できると思っています。

●「リカップMのすすめ」を読んで鳥山さんという方のお考えは、解りました。

ただランチで言うダンス会とは基本的にどういふものなのでしょう！

一部の踊れる人達が楽しむための会なのか、普段の練習結果を参加することによって向上させようとする人達も含めてのものなのか、ランチへ入会して日の浅い私には良く解っていません。

●パーティでのMCについて

前もって曲名が分かっているのが易しい曲(よく踊られて誰でも知っている)はトークスルーのみにして難しい曲のみウォークスルーをしたらよいのではとおもいます。

全曲ウォークスルーで何度もやるのは少し親切すぎる感じがします。

パーティに参加しようという人はそれなりに事前に予習しているのではと思います。

●「リカップMCのすすめ」を読んで

リカップMCだけで、パーティでスコティッシュカントリーダンスを踊ることができるとしたら、それはすばらしいことだと思います。しかし、現実には、事前にプログラムのダンスが分かっても、ダンス会場で、ウォークスルーで動きを確認したほうが、ダンサーは安心できます。ポピュラーで何度も踊ったことのあるダンスは別かもしれませんが、事前にプログラムがわかっている間に、ウォークスルーできると思われま

す。そのために大切なことは、MCはダンサーにリカップだけで十分理解してもらえるように言葉を選んでリカップしなければなりませんし、また、ダンサーも、リカップだけで踊れるくらいに、事前に準備しなければならないと思います。

今年、St Andrewsの近くの町で行われたパーティに参加したとき、やはりリカップが主でした。しかし、その会場で初めてプログラムを知る飛び入りダンサーや(私もその一人でした)、初心者に近いダンサーがいるセットは、リカップの間にウォークスルーしてダンスを確認してもよかったのです。そのあと、MCがまことに早口で一瞬のうちに再度リカップし、続いて素晴らしい

George Meikle のバンド演奏が始まりました。「こんな方法だといろいろな人がダンスを楽しめる！」と実感しました。

また、プログラムに関しては、比較的易しいダンスを多く入れるほうが、多くのダンサーがスムーズにリカップで踊れて、パーティを楽しめると思います。

●ウォークスルーなくさないで！

私はスコティッシュカントリーダンスを始めて4年たちました。最近をよくパーティに参加するようになって楽しんでいますが、ポピュラーな曲以外はウォークスルーをやって欲しいと思うのは甘えでしょうか？

パーティの前にはダイヤグラムを確認して書き写したものを用意しますが、それを全部憶えられる訳もなく、また曲の中にはダイヤグラムが入らないものや時間の制約もあってクラスで一度もやっていない曲もあります。安心してミスを少なく楽しく踊るためにウォークスルーをやって欲しいと思うのです。

上級の方のためのウォークスルーなしのパーティもあっていいと思いますが、ウォークスルー付きのパーティもなくさないで下さい。

色々なやり方でダンス会を行えば良いのではないのでしょうか。

私、個人の考えとしたら一回のウォークスルーにより6人～10人がスムーズに動け、楽しめたら、そちらのほうを選びます。

●ブランチャレターNo.86の「リカップMCのススメ」、興味深く読ませていただきました。

SCDの世界標準やSCD先進国のやり方に則したダンス会を目標にされていますが、そのまま東京ブランチャのダンス会に当てはめていいものかどうかをまず検討するべきではないかと思います。なぜなら、日本は「ダンスがレクリエーションよりも社交の必修マナーと考えている日常生活」ではないからです。

ある程度の年齢になってから始めたダンス、しかも慣れない英語で学ぶ人たちにとって、それなりの経験を積んでからでないでダンス会に参加できないというのは、SCDにとって一番大切な社交性を身につける最大のチャンスを逃すことになりませんか。

ランチには様々なレベルの会員がいて、その交流の場としてのダンス会があり、初めて会う人と一緒にSCDを楽しみ、多少の経験の違いはチームワークでカバーする。そのためには各クラスのティーチャーは会員のレベルに応じてプログラムについての細かいアドバイスが必要で、参加する会員は自分のダンシングに自覚を持ち、踊れないダンスは見て雰囲気を楽しむのもいい経験だと思ってほしい。

そしてMCは、参加者に応じてリカップのみにするかウォークスルーをするかをミュージシャンの気持ちの乗り具合や雰囲気の盛り上がりを妨げないように判断して進めていけばいいので、初めからリカップのみ、または全ダンスウォークスルー付きなどと決める必要はないと思います。大切なのはMCやミュージシャン、主催者だけが雰囲気を盛り上げるのではなく、参加者全員で協力して会を成功させようという意識を持つことです。いろいろな決まり事を守るのはもちろん、MCが判断したことに従うのは当然のマナーだと思います。ウォークスルーをしているのに、その場で不満をもらし、自分または自分たちのセットは踊り方を知っているからと動かないのは雰囲気を台無しにする行為です。経験を積んだダンサーこそ他の人のお手本となる参加のしかたを身をもって示してほしいものです。ビギナーからティーチャーまで、全員で協力して東京ランチを盛りたてていきましょう！

●小海弘子さんから

“チラッ！”と言った一言、覚えていてくださったんだあ〜”と思いつつ読みはじめ、“よくまあここまでハッキリ！ キッパリ！！書いたもんだわね〜”と読み終わりました。

文の中に、ウォークスルーによってミュージシャンがどうなるか...という部分がありますけれど、それに近いことを言ったことがあるのです。

「テンポよく進めてくださると弾きやすい」って・・・

最近たまにあるのが、ウォークスルーが終わりに近づき“さあ、ソロソロね”と指を鍵盤に... (デュオの時は目配せ...) とした時「動きたい方いますか〜？」の声。(エッ？ ナンダナンダ...) 「では、その方1組にきて...もう一度」という {ウォークスルー2回付き} ケース。“クラスじゃアナイんだから...”と思いつつ、しばしオヤスミ... で、やっと出番となるのですけれど、コレでヤル気が

低下するかどうかはともかく、ズッコケるのは確か。1回であっても"長いなあ〜"と思いつつ待っていることもあるウォークスルーですけど、かと言って、無かったため(?)壊れて行くセットを目にしながら弾くというのもツライものがある...って、じゃあ、どうすりゃいいんだ...ですよ、ね、スママセン。謝りついでに付け加えますと、自分がダンサー...踊る立場になった時は、これはもうウォークスルー付きが嬉しい!「じゃ、もう一度動きましょか」となった時などニコニコと動き「ヤッター!」なのですから...勝手なもんです。

ダンスによってはリカップのみで良いものもあるとは思いますが (The Deil Among the Tailors のように??) ウォークスルーは要らない、リカップのみが良いと決めつけるのではなく、ダンス同様、テンポが大事なのではないのかしら? {テンポの良いウォークスルー1回付き}... コレならフニヤク壊すことなく楽しいダンス会になるんじゃないのかなあ〜... そうやっていただけると嬉しい! というのが "たまにダンサーになるミュージシャン Hiroko" の「リカップ MC のススメ」を読んでの感想です■

リカップなし MC のススメ

東京ブランチではウォークスルーの是非をめぐってかまびすしいが、ロンドンではウォークスルーはおろか、リカップもなしでやってくれとの意見があり、賛否の議論が展開された。

ジョン・リープ

私個人の感想であるが、多くのダンス会にまったく退屈な習慣がはびこっている。それはどんなダンスでもリカップをやることである。MC はきちんとした説明をしているのであるが、そのダンスになじんでいない人は、そこから役に立つ動き方を得ているとはとても信じられない。多くのダンス会では、チラシに簡易説明文が載っていたり、あるいはダイアグラムが書かれている。よって、ダンス会までにダンスを勉強する時間は十分にある。それをやらなくてもよい人に対して、スタート部分を思い起こさせるためにリカップするのはもちろんであるが、微に入り細にわたるのはぜひ止めてほしい。それと、そのダンスを知らないが、リカップで踊れるようになる人などい

ないということもわかってほしい。

リカップしているとき、ダンサーは退屈しているか (ため息をついて天を見上げている)、まわりとおしゃべりするかで1分間ないしそれ以上を待っている。

すべてのダンスがリカップされた場合、ダンス会におけるわれわれの貴重な 20 分間、立ったままで費やされてしまう。みなさんの考えはいかがだろうか? (The Reel No.267, Feb-Apr 2009)

上記の意見が発端となり、つぎの意見がよせられた。

ジョン・ラッセル

私が知りたいのはジョン・リーブのダンシング経験年数である。多分相当な年数なのではないかと思う。私の経験は4年、ダンス会のリカップをありがたいと思っている。プログラム中の数ダンスは簡易説明文の助けを借りて事前にクラスで勉強すべき、には同意できる。だが、説明なしに20以上のダンスを踊るといのは、新人ダンサーにとっては気力を失うことであり、とくに踊りのスタートは途方に暮れてしまう。ライン上でダンス開始を待っているあいだ、必死でダイアグラムを見ている人を何度となく見ている。私は、ダンス会はソーシャルであるべきであり、いろいろなどころからきている人と知り合い、新人ダンサーを力づけるべきものと考え。リカップなしでは踊る自信がないため合宿行事に参加しないという多くの人を、いくつものクラスで見してきた。もし20分がリカップに使われたとしても、多くの人がダンス会に来てくれるならば、それほどの問題ではないと思うが?

グレアム・ベリー

私はミュージシャンであってダンサーではないが、ミュージシャンの立場から考えを述べたい。いらいらするのは、演奏を始める前のシンプルなリカップよりもウォークスルーである。ウォークスルーは増えつつあると思われ、自習してこないダンサーを非難するのは簡単であるが、主たる責任はそれを容認する MC にある。

私はノーリカップ (あるいはごく短い説明だけ) のダンス会で何度となく演奏してきたが、そのほとんどでみなよく動いていた。そのダンスを忘れていたダンサーはほとんどおらず、ダンス大失敗はごくごくまれであった。他方、私は大多数のダンスがウォークスルー、というダンス会でも演奏

している。これはバンドの観点からは信じられないほど退屈であり、踊る時間よりもウォークスルーのほうが長いというダンスもある（例：The Dreamcatcher）。私の考えからいうとウォークスルーはまったく不要であるか、とっぴなわかりにくいダンス、あるいはなじまれていない、その地域固有のダンスを踊らせるためにある。しかしながらこの場合、大部分のダンス主催者はそのイベントのプログラムに添えて、ダンス説明書を送らなければならない。かつそういったダンスは全ダンス中1つか2つにとどめる分別がなければならない。

残念ながら、実際にこのようなやり方はなされておらず、最近私が演奏したダンス会ではプログラムの20ダンス中、14ダンスがいままで聞いたこともないダンスであった。ダンスを習うべきはクラスであって、ソーシャルなダンス会においてではない。

ウォークスルー（もしくはまったく丁寧なリカップ）が不要という証拠は、MCがダンス説明で小さなミスをしたとき明確に現れる。会場にいるほぼ全員が、すぐにその間違いを一斉に指摘する。つまりみなそのダンスを知っているのである。この本質のさらなる証明が先週あった。最後のダンスは会場の借用時間切れ寸前の状況にあった。セットができあがり、MCが128小節のウォークスルーに移ろうというとき、われわれバンドは演奏開始を決断した。全員が終わりまでちゃんと踊り、全プログラムは時間内で終了した。

以上はもちろんダンシング習熟のない、単なるミュージシャンの意見であり、みなさんの感想をお伺いしたいと思う。

メリー&エデア・アンドルーズ

ジョン・リーブの意見に心から賛同する。ダンス会に行く前に、みなちよっとした予行練習をやっていると思う。われわれは「ダンスはソーシャルな機会であり、くそまじめにとらえてはならない」としばしば聞かされている。

エリザベス・ベネット

私はリカップはできるだけ簡潔に、そしてむしろ記憶を呼び起こすものであるべきと思う。また、全ダンスをリカップすべきと思う。最後の動きを忘れてる人もいるのである。近年のダンス会はみな助けを必要とするダンスが多すぎる。できるなら、リカップを必要としないよく知られたダンスとし、そしてむずかしいダンスに

おいてはビギナーズに暖かく対処しなければならない。むずかしいダンスばかりでリカップもなく、年数の長いダンサー専門のプログラムを何度も経験した。

アン・ディックス

ジョン・リーブの意見に賛成である。ジョンの意見はダンス会に参加している人には大きな驚きであったと思う。しかし私は、ジョンの意見よりも、お粗末なリカップならむしろリカップなしのほうがよいということに同意する。

ごくわずかの例外はあるものの、私はクイックなリカップなしにダンスを思い出すことができない。そもそも、われわれはダンスを習うよりも、ダンシングを習うほうに力を注いでいる。われわれはダンスとダンスの間に簡易説明書やダイアグラムを読んでいるが、これはスコティッシュ・カントリー・ダンシングの大きな恩恵の一つ、社交性を減じている。私は、リカップは短く、簡潔であらねばならず、ダンスを教えるのではなく、記憶を呼び起こすものであるべきと信じている。もし私と同じように皆がダンスを思い出せなくても、大多数のダンサーがダンス会の進行に心地よさを感じているなら、われわれはダンシングをととても楽しんでいるといえる。リカップが短く、簡潔であれば、時間の浪費はわずかであり、多くの人がダンスそのものを楽しめる。

私が強く意識するのは、セットから外れてしまったダンサーをどのようにするかである。そのラインに1カップルだけが余り、さらに3カップルが必要というケースはしばしば起こる。遊軍のカップルを呼ぶわけであるが、一方では早くセットを完成させなければならない。できるなら、余った1カップルは（そのカップルはイスに座りたいのかもしれないが）、別のセットに5組として入れたほうがよい。それとは別に、遊軍のカップルを呼ぶとき弱い者いじめの態度がよく見られ、そして実際には踊りたくないのだが、人はしぶしぶイスから立ち上がっている。このことは、そのダンスがより複雑なダンスであるとき、あるいは遊軍のダンサーが経験者でないときに繰返し起こっている。その結果、遊軍のダンサーは動きを間違えたり、不当に扱われてそのダンスを台なしにし、非難されることになる。

ダンシングは喜びであること、そしてそれにはフロア内外における人とのふれ合いが含まれていることを忘れないように。

（以上 The Reel No.268, May-Aug 2009）

この討論の最終意見はつぎのとおりである。

ジョン・マーシャル

ボールにおけるウォークスルーは、そのプログラムがよくないという証拠である。よいプログラムとは、参加者のだれもがよく知っている、主流のダンスの組み合わせである。そこにはとっぴなダンスはなく、とくに地域固有のダンスはない。そうすることによって、頭に負担をかけることなく、すばらしい雰囲気の中で全員が楽しむことができる。

MCの「このダンスはよく知られていないので、ウォークスルーします」という恐ろしい言葉以上に、雰囲気をぶちこわす事柄はありえない。このわけのわからないダンスをプログラムに入れたのはなぜ？という質問は当然である。

バークシャー／ハンプシャー／サリー3県ブラン チ委員会

3県ブランチ委員会は地域内の案件を討議するため、地域各クラブの代表、セクレタリとのミーティングを毎年行なっている。

直近のミーティングにおける長時間の話題のひとつは、ダンスのリカップについてであった。これは前号および前々号の記事によって触発されたものである。

各ダンスはリカップすべきである、というのが3県における感触である。しかしながら、リカップは短く、簡潔であること、が全員の同意事項であった。ミーティング出席者の数人は、各ダンスでウォークスルーをやるのが好まれると述べた。さらに、ほとんどの出席者はややこしい説明やティーチング・ポイントのない、超キックのウォークスルーがあれば大多数の人がハッピーになれるとも述べた。この話題の教訓は、MCは慎重に人選すべき、である。ダンス会の進行とともに、終わりまで新人ダンサーを力づけること、MCは会の開始にあたってウォークスルーをやること、経験の浅いダンサーは1組に入らせることをアナウンスしなければならない。

ミーティングで提起されたいまひとつの案件は、プログラム上、そのクラブだけでよく踊られ、他のクラブではまったく取り上げられないダンスが多すぎることであった。未知のダンス、挑戦すべきダンスを踊るのは常にグッドであるが、ダンス会の前半・後半それぞれで1ダンスにとどめてほしい。

(以上 The Reel No.268, May-Aug 2009)

なお、レイチェル・ウィルトンに聞いたところでは、ロンドン・ブランチはリカップなしにはならず、いまま全ダンスリカップでやっているとのこと■

SCD Events in Czech, Spain and NZ

東京ブランチあてに到着した海外のSCDイベント案内です。

*プラハSCDウィークエンド

インタナショナル・ブランチ主催

6月10日(金) - 13日(月)

講師 エリック・フィンリー、ロン・ウォーレス、

音楽 笠間晶子ほか

110ユーロ(宿泊費別)

[//www.rscds-ib.org/page.php?28](http://www.rscds-ib.org/page.php?28)

*プラハSCDコースおよび西ボヘミア観光 (上記に引き続くイベント)

ドゥボラナ(プラハのSCDクラブ)主催

6月13日(月) - 19日(日)

講師 ロン・ウォーレス

概略1,320ユーロ(宿泊費込み)

[//dvorana.cz/dance/2011/skotsko](http://dvorana.cz/dance/2011/skotsko)

*バルセロナSCDウィークエンド

ローズ・オブ・バルセロナSCDグループ

10月22日(土)・23日(日)

講師 クレメント篤子

音楽 マリアン・アンダーソン

[//www.scdbarcelona2011.org](http://www.scdbarcelona2011.org)

*ワイララパ・サマースクール

RSCDS ニュージーランド・ブランチ主催

12月28日(水) - 1月5日(木)

マスタートン(ウェリントンから90分)

NZ\$1,400(宿泊費込み)

講師 デビッド・クイーン、アンジェラ・ヤングほか

音楽 ジョージ・ミークル、グレアム・ベリーほか

[//sswairarapa.rscdsnz.org.nz](http://sswairarapa.rscdsnz.org.nz)■